

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

社会系コース

記載責任者

立岡 裕士

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

## 1. 目標・計画

過去5年間、社会系の院生は定員のおおむね7～9割を充足しており、特に2009年度・2010年度は9割、2011年度は10割となっている。これは社会系構成教員のこれまでの直接の広報活動や、それ以外の活動の間接的な効果が功を奏した結果であると考えられる。したがって、2011年度においても従来と同様に、コース所属教員全体の努力により広くかつ種々なる手段によって広報・誘引活動を行い、合格者が定員を充足することを目標とする。合格者の歩留まりを上昇させる方策としては、大学院説明会で配布する修学参考資料をさらに充実させるよう試みる(この資料は説明会不参加の合格者にも送付する予定である)。

## 2. 点検・評価

大学院説明会における配付資料の充実など、受験者の増加および合格者の歩留まり向上のための措置は計画どおり実施した。しかし今年度については、合格者は定員を超えたものの歩留まりの向上は予期したほどではなく、定員充足は9割にとどまった。

## I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。  
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

## 1. 目標・計画

社会系においては学生に対する修学支援の責任を各授業の担当教員や卒修論の指導教員ないし学年担任にのみ課することなく、たとえば修論・卒論の中間発表・論文発表会などにより教員が社会系全学生の知的関心の在り様を知りうる機会を設け、さらに近年ではFD活動における議論によって、全教員が教育活動に協同する体制を整えてきた。今年度もこうした制度的側面を維持するとともに、学校教育・大学教育の社会的機能に関して討論する場をもつことで、修学支援を一層強化できるよう試みる。

## **2. 点検・評価**

FDその他の機会を利用して授業改善のための取り組みをコース全体として進めることができた。  
学生生活の支援についてもコース全体として取り組むことができた。

## **II. 分野別**

### **II-1. 教育・学生生活支援**

#### **1. 目標・計画**

教育については、学生および社会に提供する教育の質を一層向上させるべく、教員各自が授業の改善の取り組みなどを継続的に行う。

学生生活支援については、社会系コースの教員が全体として学生に注意を払い、修学はじめ学生生活の諸側面において支援を要する問題があれば適切に対処できるよう努める。

特に教育や学生指導に関わる問題は、つとめてコース会議で報告・議論を重ねることにより、コースの教員が問題を共有し全員が協同で解決を試みるようにする。

## **2. 点検・評価**

授業改善については、授業研究会における関連な意見交換などにより、各自の授業の問題点などを明らかにし改善を図ることができた。

学生生活については特に大きな問題は生じなかったが、留学生に対してはパソコンを貸与するなど修学環境に配慮した。

### **II-2. 研究**

#### **1. 目標・計画**

社会系コースにおける研究体制に特に大きな問題はないと考えられるので、本年度も昨年度と同様に、社会系コースの教員全員がその研究活動を滞りなく進められるような体制を維持することに努める。そのため、研究のベースとなる研究予算の配分方法や利用方法などについてもさらに検討を進める。

## **2. 点検・評価**

従来の配分方法に大きな問題点はなく、各自の研究を進めることができた。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

各種委員会や入試業務(学部および大学院)その他の大学運営に関わる業務をコースとして分担するにあたり、一部の教員に負担が集中することのないよう配慮しコース教員全体で協力して当たることに努める。

### 2. 点検・評価

昨年度同様に大学業務の分担表を作成することにより、特定のコース教員の負担が過重にならないよう措置することができた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

附属校との連携を緊密にし、相互の支援が継続的に行えるようにする。  
公開講座・免許更新・教員十年次研修・教育支援アドバイザーなどの各種講座・講習を通して社会との連携をより緊密にする。  
社会系コースに受け入れた留学生に対し、十分な学習や研究ができるような環境の整備を行う。

### 2. 点検・評価

附属校との連携は社会科教育学の教員を中心としながらもコース全体として推進することができた。  
公開講座・免許更新講習・教員十年次研修・教育支援アドバイザー・教育実践フィールド研究その他の活動によって社会との連携を深め、貢献することができた。  
留学生に対する支援についてもコース全体として環境整備をはかることができた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

小学校教員資格認定試験(社会科)の問題点検を担当した。